

2015.10.25 年間第30主日

先生、目が見えるようになりたいのです。

マルコによる福音 10:46-52

イエスが弟子たちや大勢の群衆と一緒に、エリコを出て行こうとされたとき、ティマイの子で、バルティマイという盲人の物乞いが道端に座っていた。ナザレのイエスだと聞くと、叫んで、「ダビデの子イエスよ、わたしを憐れんでください」と言い始めた。多くの人々が叱りつけて黙らせようとしたが、彼はますます、「ダビデの子よ、わたしを憐れんでください」と叫び続けた。イエスは立ち止まって、「あの男を呼んで来なさい」と言われた。人々は盲人を呼んで言った。「安心しなさい。立ちなさい。お呼びだ。」盲人は上着を脱ぎ捨て、躍り上がってイエスのところに来た。イエスは、「何をしてほしいのか」と言われた。盲人は、「先生、目が見えるようになりたいのです」と言った。そこで、イエスは言われた。「行きなさい。あなたの信仰があなたを救った。」盲人は、すぐ見えるようになり、なお道を進まれるイエスに従った。

説教

わたしの友人に3代目のクリスチャンという方がいます。江戸幕府の禁教が解けて日本でのキリスト教宣教が始まって150年ちょっとの歴史ですので、一世代30年と大雑把に計算しても5世代か6世代目のクリスチャンが長いほうとなります。思想弾圧、宗教弾圧は歴史の上でたびたび起こりますが、それを最近大々的におこなったのは1945年に敗戦となった戦争の時代です。キリスト教も弾圧されて明治以降のプロテスタント教会は一度解体されたといっていると思います。いまは戦後70年ですからさっきの計算で $(70 \div 30 = 2.33)$ 3代目クリスチャンはプロテスタントに限っていえば、いわゆる老舗級になるとおもいます。ところで、三代目クリスチャンの彼は奇跡を信じるといいます。イエスさまなんだから盲人の目を開けることぐらい朝飯前だ、と

断言します。わたしは彼と話していると奇跡に関してはまるで幼稚園児と話をしている感じになります。どうしてそんなに無邪気に奇跡を信じるのか、あるとき彼に訊ねたことがあります。かれはう〜んと呻り、小さい時からじいちゃんから聞かされていたからかなあ、と答えてくれました。

さて、きょうの福音はイエスが盲人の目を開くという奇跡物語です。このエピソードはマタイ 20:29-34、ルカ 18:35-43 にも記録されています。ただ、きょうのマルコ福音書にはほかの福音書とは違い盲人の名前がバルティマイだと書いてあります。だからなんだ、ということですが福音書に名前が出るということは珍しい（主な登場人物以外でという点で）ということがしばしば指摘されています。

奇跡物語に関していえば、その奇跡を合理的に説明するとか、自分の経験した、または聞いた奇跡を語り、だから奇跡はあるのですという説教をよく見聞きしますが、わたしは友人の三代目クリスチャンのように、ただ信じるということができればいいと思います。また信じる者にしてくださいと願っています。

奇跡を信じましょう、信じる人は救われます、これでおしまい、ということで今日はいいかな。でも、今回ちょっと気づいたことがあるので付け足しになりますが、簡単に説明します。

イエスは「何をしてほしいのか」と言われた。盲人は「先生、目が見えるようになりたいのです」と言った。マルコ 10:51

「何をしてほしいのか」これは先週の福音でもイエスは言われています。

ゼベダイの子ヤコブとヨハネが進み出てイエスに言った。「先生、お願いすることをかなえていただきたいのですが。」イエスが「何をしてほしいのか」と言われると二人は言った。「栄光をお受けになるとき、わたしどもの一人をあなたの右に、もう一人を左に座らせてください。」 10:35-37

先週のヤコブとヨハネの願いに関してはイエスは聞き入れませんでした。ところが、今週のバルティマイの願いをイエスはかなえます。

そこで、イエスは言われた。「行きなさい。あなたの信仰があなたを救った。」盲人は、すぐ見えるようになり、なお道を進まれるイエスに従った。マルコ 10:52

かなう願いとかなわない願い、福音記者マルコは 10 章の 35 節から 52 節にかけてこのことを対比して記録しています。さっき気づいたことがあるというのはこれです。ついでとってはあれなんですけど、バルティマイのエピソードには先々週の福音「金持ちの男」とも対比というか類比というか、なんか関係があります。

目が見えるようになったバルティマイは「イエスに従った」とあっさり記録されています。従ったということは弟子になってイエスの道中、道行(みちゆき)に加わったということです。対比の関係にある「金持ちの男」はどうかというと、

イエスは彼を見つめ、慈しんで言われた。「あなたに欠けているものが一つある。行って持っている物を売り払い、貧しい人々に施しなさい。そうすれば、天に富を積むことになる。それから、わたしに従いなさい。」その人はこの言葉に気を落とし、悲しみながら立ち去った。たくさんの財産を持っていたからである。10:21-22

彼は旅立ち、十字架への道を間近に控えたイエスのもとに来て「ひざまづいて」教えを請いにきました。そしてイエスに「欠け」を指摘され去っていきました。きょうのバルティマイはどうかというと、

一行はエリコの町に着いた。イエスが弟子たちや大勢の群衆と一緒に、エリコを出て行こうとされたとき、ティマイの子で、バルティマイという盲人の物乞いが道端に座っていた。ナザレのイエスだと聞くと、叫んで、「ダビデの子イエスよ、わたしを憐れんでください」と言い始めた。多くの人々が叱りつけて黙らせようとしたが、彼はますます、「ダビデの子よ、わたしを憐れんでください」と叫び続けた。

…(中略)…盲人は、すぐ見えるようになり、なお道を進まれるイエスに従った。

10:46-52

イエスはエルサレムへの道を歩み始めてエリコに着いた時、視覚障害者で路上生活者の男が叫び続けます、イエスの従者(弟子たちでしょう)はしかりつけて黙らせようとするけれど、イエスはバルティマイの願いをあっさり聞きい

れてます。そして、盲人だった男はなんのためらいもなくイエスに従った、つまり弟子に加わりました。ひざまづき、礼をつくしてイエスのもとに来た金持ちの男は願いも空しくイエスのもとを去り、叱られても叱られてもしぶとくわめきちらかした視覚障害者で路上生活者のバルティマイは願いもかないイエスの弟子となる栄光も得ます。

きょうの奇跡物語も先週、先々週の福音と似ているところ、違っているところを比べながら読んでみるとすっきりと腹の中にはいってくるような気がします。どうして視覚障害者の名前が福音書に伝わったのか、どうして金持ちの男の名前をわたしたちは知ることができないのか、この疑問もエピソードを対比すればあ〜そういうことね、と理解できると思います。（わたしのさもしい理解を披露すれば金持ちの方はいってみれば恥ですから名前をあげつらうことを福音記者はためらった、武士の情け？もちろん違う解釈あります、それぞれに思い巡らしてください）

先週はわたしたちは何を願っているのかという問いかけで説教を閉じました。今週も同じ問いで閉じようと思います。福音のことばをお聞きください。

イエスは「何をしてほしいのか」と言われた。盲人は「先生、目が見えるようになりたいのです」と言った。10:51
